



「いつもとは違う夏」

校長 飯田 雅人

6月1日より学校が再開されました。分散登校から始まり、給食なしの短縮授業。7月に入ってようやくの給食開始。思えばここまで、大人も子どもも今までとは全く違ったことに対して様々な配慮が必要な日々でした。毎朝の検温に始まり、校舎内では原則マスクを着用しての学校生活。授業の中でも、工夫して密にならないように気をつけたり、子どもたちにはこまめに手洗いをするように声をかけたりの毎日です。給食はみんなで前向きに食べて、なるべくお話をしないようにし、食べ終わったらすぐにマスクをするという教室での給食風景でした。放課後は教室や廊下などの共用部の消毒に明け暮れる教職員。暑くなってきてからは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のみならず、換気とエアコンのバランスを考えたり、こまめに水分補給をするように声をかけたり熱中症対策にも取り組んできました。いつもならば、もう夏休みに入っているこの時期です。子どもたちは、楽しいプールなどの授業もなく、だらだらと汗をかきながら、毎日暑さと闘い、黙々とマスクをしての学校生活にがんばってきたように思います。昨年度の3月に引き続き、4月、5月は長い臨時休校となってしまいました。友達や先生に会えない、外で思い切って遊ぶことができない等、子どもたちにとって決して楽しい休みの日々ではなかったはず。それなのに子どもたちの夏休みは短くなってしまっ

て……。先日のテレビ朝会で、「今、何か楽しみにしていることはありますか？」と子どもたちに聞きました。「今年のみなさんの夏休みは、いつもより短く2週間しかありません。でもだからこそ、だらだらと過ごすのではなく、みんなにとって楽しくて充実した夏休みにしてほしいと思っています。」「そのため今年の夏休みは、いつも出している学校からの宿題を原則としてなしにします。その代わり8月17日からはまた気持ちを切り替えて、集中して学習に取り組ましよう……。」「やったあ〜！」という子どもたちの声が放送室まで聞こえてきたことは、言うまでもありません。様々なお考えがあるかとは思いますが、こんながんばってきた子どもたちのことを思えば、「こういう夏休みもあっていいのかな。」と思い教職員みんなでそうすることに決めました。ご理解いただきますよう、よろしく願いいたします。

8月17日より夏休み後の授業を再開しますが、今一番私が気にかけていることは、11月25日～26日に予定している6年生の日光修学旅行が無事に実施できるかどうかです。当初は6月に予定していましたが、緊急事態宣言等の関係で9月に一度延期し、さらに感染者数再増加にともなって11月まで再延期しました。様々な制限がある中での実施にはなりますが、子どもたちにとっては一生に一度の小学校修学旅行。もちろん健康・安全を第一に考え、関係諸機関とも連携を図りながら実施の可否の最終決断を下すこととなります。新学習指導要領の特別活動の中にある遠足・集団宿泊的行事の目標には、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化に親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」と示されています。この目標を達成するために修学旅行が最適であることは、言うまでもありません。何とか無事に実施してあげたいと今は切に願っています。